

図書館だより



No. 5

平成 28 年 9 月 30 日

2日間、大変な盛り上がりを見せた桔梗祭を終え、少しずつ秋が深まってきました。過ごしやすく、美しい景色を楽しめる秋は積極的に外へ出かけていきたいところです。

2年生はいよいよオーストラリアへの修学旅行です。下調べを重ね、オーストラリアに関する知識も増えてきたかと思いますが、出発までにさらに情報を集めて修学旅行を十二分に楽しんできましょう。また、現地の人に日本のことをたくさん紹介できるように年中行事や食文化、伝統などについておさらいしておくのもよいかと思えます。オーストラリア特集の展示の他にも、英語で日本を紹介するのに役立つ本などもありますので、図書館を活用しにきてください。

また1年生は秋の教養散策が待っています。上野にあるル・コルビュジエが設計した国立西洋美術館は今年、世界遺産に登録されたばかりですし、東京国立博物館は日本最古の博物館です。展示作品だけでなく、建物の造りなどにも注目して散策を楽しんでください。



英語で紹介してみよう*

837-ハ 『やさしい英語で日本の魅力を詳しく伝える』 ジェームス・M・バーダマン || 著
明日香出版社

海外旅行先で日本のことを尋ねられたら、英語でスマートに紹介をしたいものですよね。そこで、会話が弾めば、交流も深まります。しかし、予習なしには難しい！英語で紹介するということが以前に、知っているはずの日本のことを実はよく知らなかった、なんてことに気がつく人も多いかと思えます。そんな人はこの本で日本の魅力再発見しながら、それを英語で表現するとどうなるのかということを読んでいきましょう。会話形式の例文も載っているので、しっかり基礎が身についたら、応用編としても活用してください。

上野の世界遺産*

706-コ 『国立西洋美術館』 淡光社

世界遺産に登録された国立西洋美術館の公式ガイドブックです。

所蔵コレクションの紹介・解説から始まり、設立に至るまでのストーリーやル・コルビュジエが設計したこの美術館の見どころが載っています。また館内で働く人たちの様子や美術とのふれあいを深めるための試みも紹介されており、この1冊で国立西洋美術館のことが丸ごとよくわかります。この中にも書かれていますが、フランスの彫刻家オーギュスト・ロダンの《考える人(拡大作)》や《地獄の門》などを初めとする代表作が多数所蔵されているのも特色のひとつですので、訪れた際はじっくり鑑賞してきましょう。

けしごむハンコを作ってみよう

みなさん、消しゴムハンコはご存知でしょうか。その名のとおりに、消しゴムで作ったハンコのことなのですが、思っているよりもずっと簡単に自分で作ることができるのです。しおり、エコバッグと作ってきましたが、2学期はこの消しゴムはんこに挑戦してみましょう。

今回は週に1度、金曜日の放課後(10月7日、28日、11月4日)16:15~図書館にコーナーを開設します。定員は毎回7名。事事前の申し込みは不要です。当日、カウンターで参加希望と声をかけてください。なお、先着順となります。道具は図書館で用意しますので、手ぶらで気軽に参加してください。

秋の味覚を堪能しよう

秋には様々な食材が旬を迎えます。さんま、栗、ぶどう、梨、柿、マツタケ、新米など、名前を耳にするだけで食欲が湧いてきてしまう食材がいっぱいです。そんな旬のおいしい食材を使ったレシピ本で、食欲の秋を満たす料理を作ってみませんか。旬を迎える果物もたくさんありますので、ぜひスイーツ作りにも挑戦してみましょう。10月31日はハロウィンですが、ハロウィンのレシピブックなんてものも図書館にはあります。「ハロウィンに何か作りたいな~」とと思っている人は活用してください。

栄養いっぱい、うまみもいっぱい

596-ホ 『ホクトのきのこレシピ』 ホクト || 監修 幻冬舎

ホクトは、きのこの研究開発・生産・販売まで携わる日本唯一の「きのこ総合企業グループ」です。そのホクトが手がけたきのこのレシピ本。マイタケ、エリンギ、しめじ、ブナピーなどを使った定番のきのこご飯やお味噌汁、炒めもののレシピから、麻婆豆腐やドライカレー、トーストなど、きのこって、こんなに色々な料理に合うものなんだと新しい発見をするレシピが載っています。また、きのこに含まれる栄養やその効果など、きのこが健康や美容にどれだけいいものなのかが紹介されており、「この秋はきのこをたくさん食べよう！」という気持ちになります。

毎日食べたくなるりんごのお菓子*

596-ウ 『りんごのかんたんおうち菓子』 内田 真美 || 著 主婦と生活社

そのまま食べるのもおいしい林檎ですが、お菓子にしてもとってもおいしいですよ。ケーキにしてもよし(りんごのチーズケーキがおいしそう!)、パンケーキやパンにしてもよし(ジャムも手作り!)、プリンやゼリーにしてもよし、どれもこれも本当においしそうで、さっそく今日にでも材料を集めて作ってみたくになります。冷え性の女子に嬉しいアップル・キャロット・ジンジャーケーキや和菓子好きにおすすめしたい黒糖豆乳葛りんごなど、幅広いレシピが載っているので色々なお菓子に挑戦してみてください。

🇯🇵 ニッポン再発見 🇯🇵

ニッポン再発見第5回は中部(岐阜、山梨、長野、静岡、愛知)の5県です。世界遺産にも登録された白川郷の合掌づくり集落や名産の飛騨牛が有名な岐阜県。武田信玄ゆかりの地で、桃・さくらんぼ、ぶどうと果樹園がたくさんある山梨県。1998年冬季オリンピックの開催地であり、現存する五重六階の天守の中で日本最古の国宝の城である松本城のある長野県。伊豆や熱海などの観光地の他、国民的アニメ「ちびまる子ちゃん」の舞台である静岡県。織田信長、豊臣秀吉、徳川家康と歴史に名を残す三英傑を生み出した愛知県。これからの季節は日本屈指の山岳景勝地として、年間150万人もの人々が訪れる上高地(長野)や富士五湖のひとつ河口湖(山梨)、4000本以上と言われるもみじが散策道を彩る香嵐渓(愛知)などへ紅葉を見に行くのもいいですね。



富士山だけじゃない

291-オ 『富士五湖周辺の山あるき』 平田 謙一 || 著 JTBパブリッシング

富士五湖とは、山梨県南部、富士山北麓にある本栖湖、精進湖、西湖、河口湖、山中湖のことを言います。この周辺には富士山以外にも登山にオススメしたい山がたくさんあります。それが1冊になって紹介されているのが、この本。登山初級者でも楽しめる山から、本格的な登山を楽しみたい人が満足できる山まで多彩なコースが紹介されています。コースごとに登山に適したシーズン、所要時間、高低差、見どころなどの各種データが載っていますので、下調べをするのにも便利です。富士五湖や富士山が見えるコースで景色を楽しみながら登るのもよし、山に生息する花や木を愛でながら登るのもよし、これからベストシーズンを迎える山もたくさんあるので、今年の秋は登山に挑戦してみたいかでしょうか。

“喫茶王国” 名古屋

673-オ 『名古屋の喫茶店』 大竹 俊之 || 著 星雲社

名古屋といえば、喫茶店のモーニング。朝の時間、コーヒー1杯分の値段でトーストやゆでたまごがついてくるお得なサービスです。このモーニングのメニューがとにかくすごいのが名古屋。パン食べ放題がついてきたり、蕎麦や茶碗蒸しがついてきたり、デザートがついてきたり、早起きして通いたくなる喫茶店がたくさんあります。しかし、名古屋の喫茶店の魅力は決してモーニングだけではありません。街に根付いた雰囲気のある喫茶店や何度も食べたくなる名物のある喫茶店、こだわりの一杯が飲める喫茶店、一風変わったおもしろい喫茶店など、「喫茶店って、いいなあ」と感じられる魅力的なお店だらけです。きっとみなさんもこの本でその魅力を知ったら、名古屋で喫茶店めぐりをしたくなるはず。

円空さんの彫る仏像

708-ニ-2-6 『円空と木喰』 NHK「美の壺」制作班 || 編 NHK出版

江戸時代の造仏聖として知られる円空が生まれたのは美濃の国(岐阜)です。自分が死ぬまでに12万体の仏像を彫ると決意し、諸国遊行をしながら、庶民のために仏像を彫り続けました。

みなさんは円空の彫る仏像を見たことがありますか。円空の仏像は、素朴で優しい顔をしていて一度見ると心から離れなくなる不思議な魅力を持っています。仏像に興味がない人が見ても、心惹かれる何かを感じるだろうと思います。そういう魅力を円空の彫る仏像は持っています。この本では、円空のことや鑑賞のツボが初心者にも読みやすく、わかりやすく解説されています。作品の写真も多く載っており、写真からも仏像の温かみが伝わってきますので、ホッとしたい時、静かな時間を過ごしたい時、この本を開いてみてください。

📖 図書館司書の「今月はこの本を読みました」

『模倣犯 上』(913.6-ミ 小学館)を再読しました。ちょうどタイミングよく9月21日、22日にテレビ東京でスペシャルドラマも放映されていましたね。『模倣犯』を読むのは、三度目になりますが、読む前にはいつも自分の心が弱っていないかどうかを確認します。それは読んでみると、どうしようもなく心が押し潰されそうになるからです。『模倣犯』では、そのくらい凄惨な事件が起こります。たくさんの方が心に傷を負い、大切な人を失い、事件に翻弄されます。読んでいる側には犯人が見えていますが、真犯人はずる賢く、誰もその姿を掴むことができません。「早く誰か気づいて！」と何度も願いますが、真犯人に捜査の手が届くことなく上巻が終わっていきます。そして、下巻ではさらに想像を超える展開が待っているのですが、展開がわかっているにもかかわらずやっぱり本を開く時、緊張します。グイグイと物語の中に引き込まれていくのをはっきりと感じられる力のある小説です。



【今井】

『徒然草：ビギナーズ・クラシックス 日本の古典』(914.4-3 角川学芸)を読みました。

きっかけは、序段の読み方が昔と今とでは少し違うという話を聞いたからです。私が学生だった頃は「徒然なるままに日暮(ぐ)らし、硯に…」でしたが、この頃では「徒然なるままに、日暮(ぐ)らし硯に…」と読むそうなのです。みなさんは、どう読んでいましたか？ やっぱり序段は暗記させられましたか？ せっかくなので、カバンに入れて移動の合間などに少しずつ読みました。各段は程よい短さで、取り上げる話題は会話のマナーやペットの飼い方、謎文字の歌についてなど多岐に及びました。共感したり、そういう考え方もあるのかと妙に納得したり、兼好の人となりを身近に感じられ、楽しめました。無常観だけの本ではなかったのです。人と本についておしゃべりすると、いろいろ得るものがあります。そのきっかけが、みなさんにもあるといいですね。そういえば、最近図書館の本棚にポップが増えました。満月のような台紙に図書委員さんが工夫をこらして本の紹介を書いていたのです。ぜひ、きっかけのひとつにしてください。【鈴木】